

イエスの母マリア パート2

聖書箇所

カナの婚礼 ヨハネ2:1-12

イエスのことを心配した家族がイエスに会いに来る マタイ12:46-50 マルコ3:31-35

郷里における人々の不信仰 マタイ13:53-58 マルコ6:1-6

十字架にかかるイエスを見るマリア ヨハネ19:25-27

イエス昇天後のマリア 使徒の働き1:12-14

カナの婚礼

ヨハネ2:1-12

2:1 それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があり、そこにイエスの母がいた。

イエスが公生涯を始められてからのマリアの記述を時系列的に並べてみたが、このヨハネ2:1～のカナの婚礼を真っ先に持ってきた根拠が書かれている。

「それから三日目に」とあるが、イエスがバプテスマを受けられた記述がヨハネ1:29～に書かれている。そして、ヨハネ1:35～ヨハネの弟子二人がイエスのところに行き、1:39には、「そして、その日、イエスが泊まっておられるところを見た。そしてその日、イエスのもとにとどまった。」とあるので、イエスがバプテスマを受けられて、2日経っている。イエスに会いに行ったヨハネの弟子の内一人が、シモン・ペテロの兄弟アンデレであって、アンデレがまず自分の兄弟シモン(ペテロ)をイエスのもとに連れて行ったとあるが、イエスに会ってから何日後とまでは書かれていないが、そう時間が経っていると思えない。そして、1:43には、「その翌日」とあって、その日にイエスはピリポとナタナエルに会っておられる。そして、この2:1の「それから三日目に」が来る。つまり、イエスがナタナエルと合われてから三日目ということになるので、最短でイエスがバプテスマを受けられてから、1週間ぐらいということになる。そのような時にガリラヤのカナで婚礼があった。しかし、実際はもう少し時間が経っていたかもしれない。2節を見ると、「イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれていた。」と書かれているので。ヨハネは、イエスの母について書いているが、夫のヨセフについての記述はないので、既に他界している可能性があるが、ヨハネは自身が選んだイエスが行った最初の奇蹟の際にイエスの母がいたことを記述している。イエスが十字架につけられてずっと面倒を見たであろうヨハネがマリアのことを書いていても不思議はない。直接聞いた可能性が大なので。

2:2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれていた。

2:3 ぶどう酒がなくなると、母はイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。

この婚礼はイエスの家族とかなり親しい人、あるいは親戚か何かの婚礼の可能性が高い。イエスも弟子たちも招かれており、イエスの母は少なくとも婚礼の手伝いをして

いたことが分かるからである。

4 節以降を読むと、イエスの母は、すでにこの時点でイエスがなくなったぶどう酒を何とかしてくれると期待していたと考えられる。つまり奇跡も含めて。そうでなかったら、わざわざ、イエスに向かって、「ぶどう酒がありません」とは言わないであろう。母マリアは、この段階から、イエスが特殊な能力を持っており、それを使うことを期待していた。母という立場が強く出ているように見える。

2:4 すると、イエスは母に言われた。「女の方、あなたはわたしと何の関係がありますか。わたしの時はまだ来ていません。」

しかし、イエスはそれに対し、スルーさせるような発言をしている。マリアは母という立場を強く出したが、答えるイエスは、親子関係を表す呼び方ではなく、マリアを「女の方」と言って、親子関係ではない関係、メシヤとその民の関係に言及している。

2:5 母は給仕の者たちに言った。「あの方が言われることは、何でもしてください。」

しかし、このようなイエスの反応にも関わらずマリアは、イエスが何とかしてくれることを期待していることが分かる。マリアは給仕の者たちをある程度仕切る立場にあったようだ。給仕の者たちはイエスの言うことをそのとおりにしているのだ。

2:6 そこには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、石の水がめが六つ置いてあった。それぞれ、二あるいは三メトレテス入りのものであった。

脚注によると、1メトレテスは40リットルであると書かれている。なので、2メトレテスは80リットル、3メトレテスは120リットルになる。なので、水がめは六つあり、2メトレテスの物は最低1つあったと考えられるので、最大680リットル、最小520リットルと言う計算だ。何人の参加者がいたのか分からないが、かなり酔いが回ってから出すにしては、かなりの量のように思える。

2:7 イエスは給仕の者たちに言われた。「水がめを水でいっぱいにしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。

2:8 イエスは彼らに言われた。「さあ、それを汲んで、宴会の世話役のところに行って行きなさい。」彼らは持って行った。

給仕の者たちは、マリアに言われたように、イエスの言うとおりにしている。

2:9 宴会の世話役は、すでにぶどう酒になっていたその水を味見した。汲んだ給仕の者たちはそれがどこから来たのかを知っていたが、世話役は知らなかった。それで、花婿を呼んで、

2:10 こう言った。「みな、初めに良いぶどう酒を出して、酔いが回ったところに悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒を今まで取っておきました。」

イエスの最初のしるしを最初に見たのは、給仕をした者たちであった。

2:11 イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

水をぶどう酒に変える奇蹟は最初のしるしであったことがわかる。ガリラヤのカナつまりイエスは自分の故郷において、最初のしるしを行なわれた。そして、それを見たものは給仕をした者たちとイエスの弟子たちと限られており、さらにイエスを信じたのはイエスの弟子たちと、限られている。

2:12 その後イエスは、母と弟たち、そして弟子たちとともにカペナウムに下って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在された。

カナの婚礼の後、イエスの一家と弟子たちは、カペナウムに行ったが、ペテロの家がある所なので、おそらくそこに滞在されたのであろう。

イエスのことを心配した家族がイエスに会いに来る

その①マタイ12:46-50

癒しを求めて人々が大勢追いかける中、イエスが悪霊によって悪霊を追い出しているという噂を立てるものもいた。また、律法学者とパリサイ人はイエスにしるしを見せるように要求した。そこに、イエスの母と兄弟たちがイエスのことを尋ねに来た。

12:46 イエスがまだ群衆に話しておられるとき、見よ、イエスの母と兄弟たちがイエスに話をしようとして、外に立っていた。

12:47 ある人がイエスに「ご覧ください。母上と兄弟方が、お話ししようと外に立っておられます」と言った。

12:48 イエスはそう言っている人に答えて、「わたしの母とはだれでしょうか。わたしの兄弟たちとはだれでしょうか」と言われた。

12:49 それから、イエスは弟子たちの方に手を伸ばして言われた。「見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。

12:50 だれでも天におられるわたしの父のみこころを行うなら、その人こそわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」

おそらく、イエスのことを心配して(マルコ 3 章 21 節には「イエスはおかしくなった」と聞いていてと書かれている)、肉の家族である母マリヤとイエスの兄弟たちがイエスに会いに来たのだが、イエスはそっけなく、霊の家族、つまり天の父のみこころを行なうものが兄弟、姉妹、母であるとして、肉の家族も救いの必要があることを語られた。

イエスのことを心配した家族がイエスに会いに来る

その②マルコ3:31-35

おそらくマタイ 12 章の記述と同じケースが説明されているのであろう。マルコの方が詳しい説明がされている。(参考)マルコ3:20-21 3:20 さて、イエスは家に戻られた。すると群衆が再び集まって来たので、イエスと弟子たちは食事をする暇もなかつ

た。

3:21 これを聞いて、イエスの身内の者たちはイエスを連れ戻しに出かけた。人々が「イエスはおかしくなった」と言っていたからである。

3:31 さて、イエスの母と兄弟たちがやって来て、外に立ち、人を送ってイエスと呼んだ。

3:32 大勢の人がイエスを囲んで座っていた。彼らは「ご覧ください。あなたの母上と兄弟姉妹方が、あなたを捜して外に来ておられます」と言った。

3:33 すると、イエスは彼らに答えて「わたしの母、わたしの兄弟とはだれでしょうか」と言われた。

3:34 そして、ご自分の周りに座っている人たちを見回して言われた。「ご覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟です。

3:35 だれでも神のみこころを行う人、その人がわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」

郷里における人々の不信仰

その①マタイ13:53-58

13:53 イエスはこれらのたとえを話し終えると、そこを立ち去り、種まきのたとえやパン種のたとえ、畑の中の宝のたとえなどをガリラヤ湖の船の中や岸辺、そして家の中で語られた後と言う意味。

13:54 ご自分の郷里に行き、会堂で人々を教え始められた。すると、彼らは驚いて言った。「この人は、こんな知恵と奇跡を行う力をどこから得たのだろう。」

13:55 この人は大工の息子ではないか。母はマリアといい、弟たちはヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。

13:56 妹たちもみな私たちと一緒にいるではないか。それなら、この人はこれらのものをみな、どこから得たのだろう。」

13:57 こうして彼らはイエスにつまずいた。しかし、イエスは彼らに言われた。「預言者が敬われないのは、自分の郷里、家族の間だけです。」

13:58 そして彼らの不信仰のゆえに、そこでは多くの奇跡をなさらなかった。

ここの聖書箇所から、マリアのことを知ることは難しい。ただ、イエスの郷里の人たちは、イエスのことやマリアのことをよく知っており、なぜイエスがすばらしい神のわざをできるのか、よく分からなかった。イエスに対してもマリアに対しても普通の人としか見ていない。つまり、パッと見は、聖母マリアではなかったということだ。

郷里における人々の不信仰

その②マルコ6:1-6

この箇所は内容的には、マタイ13:53-58と全く同じだ。

6:1 イエスはそこを去って郷里に行かれた。弟子たちもついて行った。

6:2 安息日になって、イエスは会堂で教え始められた。それを聞いた多くの人々は驚いて言った。「この人は、こういうことをどこから得たのだろう。この人に与えられた知恵や、その手で行われるこのような力あるわざは、いったい何なのだろう。」

6:3 この人は大工ではないか。マリアの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄ではないか。その妹たちも、ここで私たちと一緒にいるではないか。」こうして彼らはイエスにつまずいた。

6:4 イエスは彼らに言われた。「預言者が敬われないのは、自分の郷里、親族、家族の間だけです。」

6:5 それで、何人かの病人に手を置いて癒やされたほかは、そこでは、何も力あるわざを行うことができなかった。

6:6 イエスは彼らの不信仰に驚かれた。それからイエスは、近くの村々を巡って教えられた。

十字架にかかるイエスを見るマリア

ヨハネ19:25-27

19:25 イエスの十字架のそばには、イエスの母とその姉妹、そしてクロパの妻マリアとマグダラのマリアが立っていた。

ヨハネ以外の十二弟子はみな散り散りになっていたが、母マリアはイエスの十字架のそばにいた。愛する息子を最後まで見たいと思ったのであろう。救い主として見ていたのではないかもしれない。

19:26 イエスは、母とそばに立っている愛する弟子を見て、母に「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」と言われた。

そのマリアに対し、イエスは以前カナの婚礼の時使われた呼称の「女の方」という言葉をマリアに対し使っている。かなりクールな反応だ。霊的な家族であるヨハネをマリアの息子であると紹介している。イエスはイエスの兄弟(半兄弟)たちがいははずなのにご自分の母マリアを肉の家族ではなく、霊の家族のヨハネに託している。尤も、あの時点で、肉親なのにイエスの最後を見ようとしていない兄弟たちであるが。

19:27 それから、その弟子に「ご覧なさい。あなたの母です」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分のところに引き取った。

ヨハネはイエスのことば通り、マリアを霊の家族として引き取ったことがわかる。

イエス昇天後のマリア

使徒の働き1:12-14

1:12 そこで、使徒たちはオリーブという山からエルサレムに帰った。この山はエルサレムに近く、安息日に歩くことが許される道のりのところにあった。

「そこで」とあるが、オリーブ山からイエスが昇天され、おそらく天使であろう白い衣を来た二人の人がイエスの再臨を預言したその後という意味。昇天前のイエスは「エル

サレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。」(使徒1:4)と命じておられたとおりにエルサレムに帰った。

1:13 彼らは町に入ると、泊まっている屋上の部屋に上がった。この人たちは、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党员シモンとヤコブの子ユダであった。

1:14 彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心を一つにして祈っていた。

イエスが昇天後、イスカリオテのユダを除く 11 人の弟子が集まり、女の弟子たち、そしてイエスの家族である母マリアとイエスの兄弟たちは、「いつも心を一つにして祈っていた」とあるので、この時点でマリアはイエスを信じ、信仰者としてイエスの弟子たちと共に暮らすようになっていたことが分かる。

マリアについて聖書はそれ以上を書いていない。おそらく信仰を持って、ヨハネを始め他の信者たちと共に生涯を終えたと考えられる。イエスを地上にもたらず器として、母となったマリア、そして信仰を持ったマリア以外のことを神は伝えるつもりはなかったようである(聖母とか聖人とか、神との仲介者的役割とか)。